

「最後の夢」

桑田直宏

「宇宙葬」を知っていますか？

「宇宙葬」とは、故人の遺灰を1人につき数グラムずつ特殊なカプセルに納め、ロケットで宇宙空間に打ち上げるサービスです。海などで行われていた散骨の宇宙版です。

第1回目は1997年4月、24人分の遺灰を格納したロケットがスペイン領カナリア諸島の上空から打ち上げられた。24人の中には、人気ドラマ「スタートレック」の作者、ジーン・ロッデンベリーも含まれていたそうです。アメリカではかなり実績があり、俳優や国会議員、宇宙飛行士などこれまでに約320人がこのサービスを利用されています。このサービスは、当然のことながら金額によって受けられる内容が違ってきます。

いろいろなプランがあり、安いのは打ち上げてすぐに落下するプランから、人工衛星として約240年間軌道上を周回するプラン。月面にぶつける月旅行プラン、宇宙探検プランは、宇宙の果てを目指していつまでも飛び続ける宇宙帆船(深宇宙探査機)に遺骨を搭載し、宇宙空間へ打ち上げるプランです。(月と宇宙探検プランはどちらも250万円)。宇宙飛行・人工衛星・月旅行プランは2020年、宇宙探検プランは2021年に打ち上げを予定。生前予約も可能とか。

「宇宙葬」を、宇宙旅行の予約と考えると、ちょっとロマンを感じられませんか？人が死ぬ話なんてと思わるかもしれませんが、人は必ず死を迎えます。最近はそれを前向きにとらえて、自分らしい最後を生前から準備する方が増えています。

天文ファンなら「宇宙葬」はちょっとしたロマンがあります。私はかなり前から自分が亡くなった後は宇宙葬にしてくれとコトあるごとに妻には伝えていますが、妻はいつもニヤッと笑っているだけなので本当にしてくれるかどうかは疑問です。生前にお金を先に振り込んで予約する方法もあります。

私の希望は240年間地球を周回するプランです(95万円)。いつも天国(宇宙)から地球を眺めることができるし、日本列島に近づくと教えてくれるアプリもあるので、上空に来ると家族が見上げてくれるとうれしいのですが、、、。

ちなみに宇宙旅行プランで永遠に宇宙の果ての飛んでいくプランも夢がありますが、地球からどんどん離れていくのは孤独でさびしいので、私は嫌です。